

平成 29 年度福岡県立図書館協議会 議事概要

1 開催日時

平成 30 年 1 月 31 日（水）14 時～16 時

2 開催場所

福岡県立図書館会議室

3 出席者

委員：7 名（欠席者 3 名）

オブザーバー：欠席委員の関係者 2 名

事務局：14 名

4 議題

（1）報告・説明

①県立図書館の運営組織について

②平成 28 年度県立図書館の運営状況に関する評価結果について

③県立図書館基本方針及び平成 29 年度重点取組について

④平成 29 年度福岡県公共図書館等概況について

（2）協議

「これからの県立図書館に求められるもの」

平成 28 年度運営状況及び平成 29 年度重点取組等に関する報告を踏まえて

5 議事内容

館長挨拶、委員紹介後、事務局から図書館協議会の概要を説明。

その後、委員の互選により会長を選任。

（1）報告・説明

①県立図書館の運営組織について

事務局から、「平成 29 年度福岡県立図書館要覧」に基づき説明。

②平成 28 年度県立図書館の運営状況に関する評価結果について

事務局から、「福岡県立図書館平成 28 年度運営状況に関する評価結果」に基づき説明。

（委員）

マルチメディアデジタイズ図書は計画どおり収集できなかった、という説明があったが、これは購入する資料がなかったのか、選定に時間がかかった結果なのか。

（事務局）

市販されている資料が少ないことが要因である。

寄贈を受けることで、マルチメディアデジタイズのタイトル増加に努めたい。

（委員）

県庁各課とのコラボレーション展示において、各課の意図する展示内容と合致する資料の収集が困難な場合があったとのことだが、資料が県立図書館にないのか、それとも資料そのものがないのか。

(事務局)

両方である。県庁各課の PR 内容に即した資料を展示しようとしたが、選書や当館の展示サイクルと合わせる事が困難なこともあった。

③県立図書館基本方針及び平成 29 年度重点取組について

事務局から、「福岡県立図書館平成 29 年度重点取組、運営目標」に基づき、基本方針、役割及び重点取組について説明。また「平成 29 年度福岡県立図書館事業一覧」に基づき説明。

続いて、事務局から、特徴的な事業について説明。

(委員)

サピエ図書館の登録形態と利用状況はどのくらいか。

(事務局)

当館では書誌データのアップのみで、録音図書そのもののアップの対応はできていない。どのような手法を採ればよいか、現在検討を行っている。

④平成 29 年度福岡県公共図書館等概況について

事務局から、「平成 29 年度福岡県公共図書館等概況」に基づき説明。

(委員)

「平成 29 年度福岡県公共図書館等概況」は、全国的に見ても非常に優れたものである。今後どうやって活用していくかが重要。

県内大学の司書養成課程の教員や学生等に対し、この資料を活用し、福岡県の図書館の発展について研究する等の働きかけを行ってみたいは如何か。

(事務局)

概況の内容については、毎年度改善を図っているが、作成するだけで手一杯という状況である。今後は、研究者や各学校に対し、新たな活用の展開を提案できるよう検討していきたい。

(委員)

この 10～15 年の発展がよくわかる資料であるので、今後検討していただきたい。
委員各位も協力なり支援なりを行っていただきたい。

(2) 協議

会長から各委員に対し、事務局から説明のあった、平成 28 年度運営状況、平成 29 年度重点取組等を踏まえ、「これからの県立図書館に求められるもの」(今後の県立図書館の運営)について意見を求めた。

(委員)

全体的には素晴らしい活動を行っていると思う。
障害者差別解消法を受けて、新しいサービスの内容と利用件数について教えていただきたい。

(事務局)

拡大読書器や助聴器などを設置しているが、利用数について統計的なものはない。
しかしながら、利用者が利用している姿を見かけるので、効果はあったと考えている。

(委員)

統計をとることは難しいというのは理解できるが、サービスが向上したという指標にもなり、他の図書館にもお知らせすることができるのではないか。

(オブザーバー)

平成 26 年度から平成 28 年度のレファレンス件数は、全体としては減っている中、子ども図書館の件数が伸びている。その要因及びレファレンスの対象は親か子どもかについて聞きたい。

また、新年度の目標値について、子どものレファレンス件数は実績より低くなっているが、なぜか。

(事務局)

子ども図書館には、パソコンを置いている子ども情報ルームがあり、インターネットを利用した調べ物ができるようになっている。

また、辞書や辞典等、調べものを助けられるものを揃えている。これらの取組が近隣の小学校に浸透して、レファレンスが増えたのではないかと考えている。

また、土日には、親子で来館し、子ども情報ルームを利用する方も増えてきているように感じる。

親を通して子どもに浸透していることも、利用が増えている要因ではないかと考える。

(事務局)

重点目標の目標値の設定の考え方は 3 通りあり、年度計画に基づくもの、過去 3 年間の平均値、前年度の実績値である。

子ども図書館のレファレンス件数は、過去 3 年間の平均値としている。

(委員)

来館者数は、最近、減少傾向のようだ。九州大学の移転というのも一因であろう。

OPAC の利用数は少し上がっているようなので、図書館へのニーズはあるものと考えますが、来館者の減少についての対策は考えているか。

(事務局)

九州大学の移転とともに、平成 28 年 6 月に福岡市東図書館が移転開館したのも一因と考えられる。

県立図書館の資料は、来館しなくても利用できる「遠隔地サービス」を行っており、このサービスの利用数は伸びている。

本サービスを始め、さまざまなツールを活用し、来館しなくても図書館サービスを受けられるということアピールしていきたいと考えている。

本年、開館 100 周年を迎えるが、この点についてもアピールして、利用数を伸ばしていきたい。

(委員)

県立図書館の施設設備は、だんだん古くなっている。

去年の夏、猛暑によりエアコンが効きにくくなっており、かなり暑かった。扇風機を使用していたが、それでも暑く、利用者が減ったのではないか。

県立図書館の所有する資料が素晴らしいのに、利用環境が悪いと、足を運ぶ人も少なくなることが懸念される。

施設の老朽化は問題であり、改善が必要。

また、サピエ図書館については、書誌データを登録しており、ダウンロードはできないもののアクセスが増えている。

また、著作権法の改正に伴い、公共図書館による総合サービスとして、点字図書館とは異なり、視覚障害だけではなく、読書困難者にもサービスを提供していくこととなる。

視覚障害のある方に対するサービスは伸びているので、統計があれば。

(事務局)

サピエ図書館に登録した書誌データについては、オンラインで貸出受付ができるようになった。県立図書館では、平成 28 年度 912 回のリクエストを受け付けている。これは、県内では点字図書館 3 館に次ぎ、第 4 位である。

全国の公共図書館においても、第 4 位であり、多くのリクエストを受けているということになる。

(事務局)

補足であるが、福岡県立図書館音訳の会（ボランティア団体）において、録音図書を製作していただいているが、ここ数年、製作量が増えて、全国からリクエストが集中している状況がある。

(委員)

そういう点は、ぜひアピールしていただくとよい。

(事務局)

設備についてであるが、昨年の夏、空調が非常に効きにくくなり、利用者には大変ご迷惑をおかけした。応急措置を行った。更新となると、まずは設計から行う必要があるため、来年度に向けて予算要求を行っている。

(委員)

空調の老朽化対策については、本協議会において、強い改善要求がでたということによろしいか。

それから、先ほど利用が減っているという意見があったが、どこの県立図書館でも同様、市立図書館が整備されてくると、県立図書館の利用は減少するという傾向にある。

そこで、県立図書館としての利用方法を強調して、伸ばしていくことが重要ではないか。

医療関係の資料の利用が増えているとの話があったが、スポット的に利用状況を調査したりして、利用が増えていることを示していくことが必要になってきているのではないか。

拡大読書器についても、一定期間利用状況を調べることで、年間利用状況を推測するなど、サービスの改善が利用に反映していることを紹介していくことが必要ではないか。

また、レファレンスサービスについても、簡単なものは減っていくので、数としては減っていく傾向にある。そのかわり、複雑なものが増えているのではないかと思われる。

そのような状況がわかるようにしていくなどの工夫が必要ではないか。

(事務局)

昨年の夏、利用者に大変暑い思いをさせてしまったことには、大変申し訳なく思っている。

今年で34年目を迎えるため、空調をはじめ、不十分な効果しか出せない状況ではあるものの、予算要求等を行いながら、しっかりとした対応を行っていきたい。

平成28年6月に福岡市東図書館が移転開館した等の影響により、来館者数は平成28年7月から減少してきているが、本年度は前年度より少々増加傾向にある。

平成29年8月は暑かったにも関わらず、昨年度の同月と比べ、1千人ほど来館者が増えている。

(委員)

図書館ボランティアの育成についてであるが、ボランティアにもいろいろ種類がある。

南筑後では、読み聞かせボランティアが熱心ではあるものの、減少傾向にあり、団体の維持が困難になっている。

県立図書館では養成講座が行われているが、南筑後や北九州からでは県立図書館まで来るのは難しい。

ボランティアに参加を促すのは難しいことから改善方法はないか。

また、福岡市東図書館ができたことで来館者が減少したことについては、県立図書館本来の機能である市町村支援という観点からすると、喜ばしいことでもあるのではないか。

そのような状況を受け、県立図書館としては、深いサービスを行うべきではないか。

例えば、医療サービスにおいては、市町村図書館が揃えられないような、難病に係る資料を揃えろとか、市町村が対応できないことをやっていただきたい。

(事務局)

南筑後地区では、子ども読書ボランティアについて、歴史のある活動をされており、とても熱心であるが、県内の地域によっては、ボランティアが非常に少ないところもある。

1960年代には地域文庫活動が活発であったが、その頃に熱心だった方々が高齢化し、後継者が育っていないことが、地域によっては切実な問題となっている。

一方で、学校においては、朝や昼休みに読書ボランティアの読みきかせが熱心に行われており、学校でのみ読書ボランティア活動を行っている方々の研修は困難になっていることを聞いている。

県立図書館としても、子ども読書に関する講座を行っているものの、ボランティアの養成については、県全体でその充実を図っていきたい。

(事務局)

医療に関する重点収集資料について、ホームページで四半期毎に公開している。
貴重な資料等、是非ご覧いただきたい。

(委員)

ボランティアを行うに当たり、スポンサーをつけてはどうか。

民間であれば、そういう支援も可能。

福岡市に146の公民館があるが、そのすべてに児童室があり、本が備えてある。そこにボランティアが読み聞かせに行っているが、交通費だけでも出せればありがたい。

また、高知県の取組として、県と市の図書館を一体としており、民間を活用しては、

(委員)

国立国会図書館による図書館向けデジタル化資料送信サービスは、素晴らしいサービスであり、利用された人はリピーターになる。

県立図書館のホームページを見ると、Q&Aのところには国立国会図書館とのリンクが貼っていない。

ぜひ、もっと前のほうで国立国会図書館の図書館向けデジタル化資料送信サービスの案内をしていただきたい。

(事務局)

国立国会図書館デジタルコレクションの中にある郷土資料の一覧表を作成している。

これを県立図書館のホームページに公開することで、案内したい。

(委員)

リンク集において、国立国会図書館と東京都立中央図書館が、その他の図書館の中に入っているので、もう少し目立つところに貼っていただきたい。

国立国会図書館については、トップページにあってもおかしくないと思う。

また、市町村図書館のホームページにおいて、県立図書館とのリンクを貼るようお願いしていただきたい。トップページにあってもおかしくない。

(事務局)

国立国会図書館の図書館向けデジタル化資料送信サービスは、郷土資料室の関係だけではなく、他でもよく使われているので、さらに広く知っていただけるように、リンクの置き場所等を検討したい。

(委員)

図書館法等の法規をまとめた資料が販売されている。協議会委員に提供していただければ、関係法規を理解していただけるのではないかと。

協議終了後、事務局から、議事概要について、県立図書館ホームページに公開したい旨を提案し、了承を得た。